



小さな手が描く、
大きな未来。

金沢で幼児・小学部のシュタイナー教育の学び

私たちは、金沢市牧町にある里山の豊かな自然環境に囲まれた小さなおうちを学舎とし、自然とのつながりと手づくりのぬくもりに満ちた「生きた学び」をすべての子どもたちへ届けています。そして、教育を通じて、誰もが自分らしく生きられるあたたかい地域コミュニティの実現を目指しています。

金のいずみ土曜学校

運営：一般社団法人白山ウォルドルフコミュニティ

〒920-0827 石川県金沢市牧町ヌ 4 3

☎ 070-8573-1711 ✉ SUPPORT@HAKUSAN-WALDORF.ORG

2025年度活動報告書

この度は、『白山ウォールドルフコミュニティ 2025年活動報告書』をお手に取っていただき、誠にありがとうございます。

2025年度は、私たちにとって真の意味での「自立」が問われた一年でした。前年度において子どもたちへの教育活動の大きな柱であった助成金がない中、運営基盤の維持において大きな試練を迎えましたが、この逆境は、コミュニティに関わる皆様の熱こそが最大の資本であることを再認識する機会となりました。結果として、よりしなやかに自律的な運営体制へと進化を遂げるための、大きな変化の一年となりました。

この報告書は、この一年間で達成された活動の成果と、それらを支えたコミュニティの力の記録です。「協力者」の皆様による献身的なサポート、里山での生きた学び「お田んぼ八十八」、そして「幼児部」「小学部」における子どもたちの輝き。これらはすべて、教育現場の最前線で心を込めて尽力する教師たちと、それを支える大人たちの意志の結晶です。

持続可能な教育コミュニティへの確かな一歩として、この記録が皆様にも思いを共有していただくきっかけとなり、その心に届くことを願っております。今後とも、進化を続けるコミュニティの活動へ、引き続き皆様のあたたかいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

白山ウォールドルフコミュニティ一同



協力者

土曜学校を応援してくれる方々がいる中で、常時サポートするメンバーが、今年度は7名います。スタッフ、見守り、補助員、指す言葉はいろいろですが、“協力者”（目標に向かって、力を合わせる者たち）これがびったりなのです。

私がこの学校を訪れた時に、心を動かされたこと、こども達を包む様な空気。前を向いて進む人達の潔さに、心を打たれたのかもしれませんが。自分に出来ることがあるなら、力を寄せたいと思いました。これまでの経験や知識を惜しみなく注ぐ他の協力者もまた似た想いがあるのではないのでしょうか。

活動では主に先生の補助、こども達を見つめ、先生と共有できるよう、毎回振り返りの時間を大切にしています。一瞬一瞬目を輝かせ、日々成長するこども達。愛しい存在です。この宝物のようなこども達と共に過ごすことは、なんと幸せなことか、そして責任重大でもあり、身が引き締まる思いもあります。

11月には保護者と協力者主導のオープンデーが開催されました。先生、保護者、協力者、町内の方々、外部の方、こども達、たくさんの力が合わさることで大きな形となり、喜びとなった日でした。この熱を持ち、輪が広がって行くこと、こども達が伸びやかに育ち行くことを願っています。

協力者：澤田 悦子



お田んぼは、よし子先生を中心に、田んぼを貸してくださっている農家さんや保護者、そしてお田んぼが好きな大人たちが集まり、「ぼかぼか」に向けて準備を進めました。

私はお米づくりが初めてだったので、何をやるにも新鮮で、一つ一つの工程がとても楽しかったです。毎日必ず食べているお米が、どのように作られ、どのように育つのかを知らなかったことが、少し恥ずかしく感じました。

お田んぼの中で感じるすべての感触が、私はとても心地よいです。身体が整っていくのを感じます。お田んぼには、不思議な力があると思っています。

そして、みんなで作業をしていると、気持ちや意識がつながっているように感じ、安心します。そのため、お田んぼの中での関わり合いは、子どもでも大人でも、自然と信頼感が生まれるのだと思います。この幸せな作業を、シーズンを通してできたことがとても嬉しいです。

お田んぼリーダーズ：筆崎 羊子

幼児部

今年の幼児部は、「畑と自然体験のクラス」、そして牧町のおうちで開催した「親子教室みつばちクラス」の2本柱で構成されました。牧町と夕日寺の豊かな里山の恵みを生かし、大人も子どもも一緒になって里山の自然をあらゆる感覚器官を使って堪能したように思います。

春には牧町の竹林から採ったばかりの青竹を用いて、竹筒炊飯を体験しました。のこぎりで竹を切る際に香ってくる青竹の清々しさ、竹を縦に「パカーン」と割る音、炭火で炊いている間に竹筒から立ち上がる湯気。炊き上がったご飯には、まさにその青竹の香りが溶け込んでおり、自然の香りを全身で味わう格別な体験となりました。



また、夕日寺自然健民園、トンボサンクチュアリーでのザリガニ釣りや、涼を感じながらの沢登りでは、大人が童心に帰って夢中になって活動を楽しんでいる姿が見られました。

一方で、自然の中の体験は楽しいことばかりではありませんでした。今年の記録的な猛暑の中、畑の活動ではこれまで以上に作物を育てることの厳しさを体験しました。お世話を手伝ってくれた保護者の方たちからは、宮沢賢治の一節をもじって「日照りの夏はオロオロ歩き」ということばを引き合いに出し、この一節にこんなに共感したのは初めてだということ。他にも作物を育てることの大変さや、農家さんのご苦労を身に染みて体験できたこと、食に対する感謝の気持ちが深まったという声をいただきました。

春からの活動を一緒に積み重ねていく中で大切なものが育まれていきました。それは、その場を共有する人同士の関係性です。自分の子だけでなく、大人同士がお互いの子どもたちを自然と見守り合う姿が多くの場面で見られました。

子どもたちは、自然の中にただ解き放つだけで、人らしく育つわけではありません。自然から多くの恵みを享受できますが、やはり、人として育つための大切な環境を創っているのは大人の「在り方」なのです。(つづく)

これらの活動において特筆すべきことは、大人自身の活動に取り組む姿勢です。沢登りでお子さんと歩きながら探検を心から楽しむ姿、青竹の香りに感動する姿など、大人が生き生きと、全身で自然からの恩恵を楽しむ様子を、子どもたちは最も近くで見つめています。

子どもたちは、大人の生き生きとした姿、驚き、悦び、そして真摯に取り組む姿を全身で感じ取り、それを模倣します。シュタイナー教育において、この「模倣」は幼児期の最大の学びのあり方です。そして、子どもたちは感覚器官を通して世界と出会い、体験し、それを自らの内側に取り込みます。この感覚体験こそが、その後の人生の羅針盤となる内なる力を育む重要なプロセスとなります。大人が自然に敬意を払い、創造的な活動に喜びを見出すとき、子どもたちは言葉ではなく、その大人の姿勢全体を吸収し、自らの内なる力として育んでいくのです。

今年度の活動は、猛暑や熊のニュースなど「気候変動」というワードをさらに強く意識させられるものとなりました。しかし、私たちは、ゲームなどのバーチャルな世界では決して味わえない、感覚器官を研ぎ澄ますような豊かでリアルな体験を、大人も子どもも共に学び、共に感動することができました。私たちは、これらの体験を通して、未来を担う子どもたちの心に、自然を愛し、創造的に生きる確かな土台を築いていきたいと願っております。

幼児部：石本さゆり



小学部

今年度の小学部は、月2回の、午後まで丸一日のプログラムと、年6回の「ぼかぼか」田んぼでの米づくりを行いました。お昼ご飯を一緒に食べ、お昼休みに一緒に遊ぶ。「この時間のために来ている」と言う子もいるほど。

朝早く着いたら、近所の方が作って届けてくださった竹の弓矢の的あて。学びと遊びに境い目はなく、子どもたちはとにかく全ての活動にからだと心まるごと飛び込んで、自分を育てていきます。それぞれのクラスの体験の寄せ集めでなく、一日を一つの大きな流れで味わえるような、ここに来ない日も、ここに自分の場所があると思えるような「がっこう」を、そしてそれを可能にする大人の輪を、つくること。一瞬いっしょに全力の子どもたちとともに、大人も大人のしごとに果敢に取り組んだ、小学部の一年を振り返ります。

ぼかぼか（お田んぼ）

今年度は、「お田んぼリーダーズ」と「お田んぼ八十八」の皆さんの協力により、子どもたちの活動内容をとても充実させることができました。畦塗り・田植え・稲刈りといった仕事だけでなく、壮大な泥んこあそび、稲がなくなって広々とした田んぼでの花いちもんめ。できたお米を神さまにお供えして、みんなで分かち合うこと、活動を支えてくださった方に感謝とともにお渡しすることも、子どもたちと一緒に実現することができ、田んぼとお米の、人を育て、繋ぐ力を余すことなく味わうことができたと思います。



おむすび・フォルメン・わらべ歌

「ふけ、ふけ、風よふけ 波になれ くるくるまわれ、、、」土曜学校の朝は毎回、朝の詩、そして皆でつくる大きな渦巻きで始まります。わらべ歌は、みんなで一つの輪をつくり、時には一人で即興的に、時にはことばのやり取りを楽しんで。

低学年には特に、円の体験を大切にしました。散歩の時間には、植物や生きものと境界線なくふれあえる今だからこそ受け取れる自然からの栄養をたっぷり受け取ります。

高学年は、日常の学校では既に、世界を外側から見て把握すること判断することの学びが始まっているので、ここではあえて、「わたし」を中心に世界に働きかけ、世界を見る学びを。そして全学年を通して、学童期に育てたい力「形づくる（手で・からだで。そして考えを）」力「バランスをとる（空間の中で・心の中で・人との間で）」力に、粘土造形やにじみ絵、芸術の力を借りてはたらきかけます。

金のいずみ土曜学校らしいメインレッスンは、「おむすび」。何気ない活動ですが、両の掌（たなごころ）でお米を包み、中心に力を自然に集めてむすぶ動きは、自然と意識を自分の中心に集めます。わたしたちの文化には、正座やあいさつ、何気ないことばの中に、「わたし」を活かし・他に感謝する精神が宿っている、それをするだけで、おのずと自分が整っていく姿を、こどもたちは日々見せてくれました。

「おはよう」の声とともに息づきはじめ、「なるようになって」いく、金のいずみ土曜学校の日。この生きもののように動いていく時間をわたしも夢中で楽しみながらいつも、「がっこう」をつくるのは子どもたちなのだと感じます。

小学部：田谷仁子

お誕生日を祝う

金のいずみ土曜学校では、幼児部・小学部ともに、毎月、その月に生まれたお友だちをお祝いするお誕生会をしています。お誕生会は、「あなた」というかけがえのないいのちを祝福する、大切なひとときです。

お祝いは、こんな歌から始まります。

♪とおい空のくから 私はやってきた
この青く輝く地上で、あなたと出逢うため
おひさまが輝き、花と鳥がいわう
よい行いができるように やさしさと勇気をこころに♪



テーブルに並んだミツロウのろうそくに火が灯されます。それはまるで、お誕生日を迎えたお子さんの心に、新しい光が灯るかのように、優しくひかります。

幼児部では、お誕生児の親御さんにご協力いただきます。「この子が生まれた日のこと」、「1歳の頃の思い出」、「2歳の頃のエピソード」……といった、誕生から今に至るまでの、親御さんから愛情を感じる成長のストーリーを語っていただきます。お子さんはもちろん、周りの大人も子どもも皆、温かいまなざしでその話をじっくり聴き、その子のことをもっと知ることができ、より深く親しみを感じるようになります。

小学部では、お祝いの主役となるお友だちへ向けて、一人ひとりから願いを贈ります。「〇〇ちゃんが、毎日笑顔でいられますように。」 「夢が叶いますように。」 「いつも元気に過ごせますように。」 「みんなに優しくできますように。」
一人ひとりの子どもたちは、願いを込めた言葉を述べながら、小さな願い星（星のオーナメント）を、（青い布でつくられた）池の中央にそっと置いていきます。

みんなからの温かい願いや祈りは、お誕生日の子どもを優しく包み込んでくれるでしょう。このお誕生会が、一人ひとりのいのちを祝福し、子どもたちのこころに、自分は愛されているという確信と、お互いを大切に思いやる優しい心を育む場となることを願っています。

文責：石本さゆり

オイリュトミー

土曜学校は2年目を迎え、子供達は授業にすっかり慣れ、伸び伸びと取り組んでいます。初め輪に入れなかった子供は、学期を追うごとに溶け込み、今やみんなを仕切る程です。またあまり言葉の出なかった子供も、自分を存分に発揮して笑顔が溢れています。それぞれの表面的な変化は違っても、一人一人の成長はかけがえのないものと感じます。

オイリュトミーの授業では、低学年と高学年の二クラスがあります。シュタイナー教育以外ではあまり馴染みがありませんが、動きを通して詩や音楽を表現します。読むだけではなく、また聴くだけでは味わえない深い体験があり、子供たちの心身に健やかさをもたらします。

低学年は私の動きを模倣しつつ、丁寧に穏やかに動きの中に入ってきます。高学年はチャレンジ精神が旺盛で、どこまでも高みを目指してやる気いっぱいです。クラスの特徴は違いますが、子供たちはオイリュトミーが好きです。あたかもずっと以前よりオイリュトミーを知っていたかのように、迷いなく動きの中に飛び込み、全身で表現します。

ほかに「農」、「手仕事」、「エポック授業」など、多彩な授業が繰りひろげられます。それらは一見とりとめなく混在しているように見えますが、有機的な繋がりを持ち、子供達は体、心、頭をフルに使って取り組みます。これらの活動がより豊かなものとなり、共に歩む人の輪が広がっていくことを切に願っています。

オイリュトミー：穴田真



手仕事

「その子の心の栄養になるような手仕事とは何だろう？」
この問いを大切に、子どもたちと手仕事の時間を過ごしています。

今年度は、お手伝いの先生が入ってくださり、より丁寧に一人ひとりの様子を見ながら、子どもに合わせた手仕事に取り組めるようになりました。集中して夢中になれる手仕事もあれば、少し難しく、根気が必要だけれど、今その子に体験してほしい手仕事もあります。シュタイナー教育には学年や年齢に応じた目安がありますが、その枠にこだわりすぎず、「今、目の前にいるこの子に何が必要か」を大切にしながら、手仕事を選ぶよう心がけています。

子どもたち一人ひとりをより深く理解するために、教師間で、時には協力者の方々と共に、クラスや休み時間などの子どもの様子を共有し、人智学の視点も交えながら話し合う時間を持っています。こうした対話の中で、これまで気づけなかったその子の一面に出会うことも多く、私たちの中にあるその子の姿が、より豊かで立体的なものへと育っていきます。

たくさんの大人目で見守り、思いを寄せることは、子どもにとって大きな安心となり、自分らしく育っていく力につながると信じています。これからも、一人ひとりのペースと個性を大切にしながら、その子にとっての「心の栄養」となる時間を、積み重ねていきたいです。

手仕事：後藤理紗子



英語

英語クラスでは、机に座って学ぶという従来のような学習ではなく、英語で歌ったり動いたり、ゲームをしたりと身体を動かしながら学びます。

今年、私が金沢に来て以来、この地で実現したいと願っていたことに挑戦しました。それは、私が以前勤めていたカナダ・バンクーバーのシュタイナー学校でも行われていた「メイポールダンス」の体験です。メイポールダンスとは、元来、豊穡を願う古代の儀式に起源を持つお祭りの一部ですが、この英語のクラスでは、ヨーロッパの文化体験の一つとして行われました。毎回のクラスで練習を重ね、そして、今年の夏至の日、ようやく子どもだけでなく、大人も輪を作りメイポールダンスを体験することができました。

英語の歌を歌いながら、皆で息を合わせ、テンポよく歩いたりスキップしたり、皆の顔には笑顔が溢れます。

参加者は頭に花冠を飾り、真ん中の高い柱の頂上から垂れ下がるリボンを一人ひとりが持ちます。サークル状に柱を囲み、歌に合わせてスキップをしながら、互いに交差してリボンを編み上げていくのが特徴です。リボンが中央の柱に美しく織り上がっていく様子は、まさに一人ひとりの個性が繋がわり、交わり、そして協力し合って、一つの社会やコミュニティを創り上げていく姿を象徴しているかのようでした。

英語：石本さゆり



土曜学校で子どもたち、保護者の皆さんと顔を合わせると、ほっとします。

お休みの子のこと、どうしてるかな？元気かな？と思ったり、参加している子を見て、今日はどんな様子かなと思ったり、もう何年も一緒に活動をしてきて、自分の一部になっている気がします。

参加できる時も、できない時も、心の中にある場所。そんな風に思っています。

保護者：森田真澄

結びにかえて

今年度は経済的な逆風の中で幕を開けました。しかし、今こうして充実したご報告をお届けできることに、深い感慨を覚えます。ここに掲載した文章や写真を振り返るにつけ、その思いは強くなるばかりです。

私たちはこの一年、資金という燃料が不足する中、土曜学校の歩みを止めることなく、試練ともいえる状況を乗り越えることができました。なぜ、それが可能だったのか——。それは、ここに関わる一人ひとりの「熱」がこの場を変容させ、確かな力となって働いていたからにほかなりません。昨年度の報告書に記した思いが、この善なる変化へと私たちを導いてくれたのかもしれない。

草刈りから教室の運営サポート、日々の清掃に至るまで、手弁当で駆けつけてくださったボランティアの方々、そして、保護者という枠を超えて「協力者」として手足を動かし、場を整えてくださった方々の献身。皆様の「手」と「心」が、子どもたちの発達にふさわしい環境を、物理的にも精神的にも守り抜いてくださいました。

また今年度は、子どもたちの学びを深めるだけでなく、新たな「教育の担い手」を育む取り組みも始動いたしました。苦しい時だからこそ、未来への種をまく。そう腹を括れたのは、皆様と共に創り上げるこのコミュニティの、小さくとも確かな息吹を感じていたからです。

2024年度が「新しいおうち」という物理的な拠点を築いた年であるならば、2025年度は、そこに人の思いが宿り、自律的な運営のあり方を模索し始めた年と言えます。特定の制度や枠組みに依存せず、一人ひとりの意志と行動によって支えられる教育環境へ向け、私たちは一步を踏み出しました。現状は、多くの方々の奉仕によってこの場が維持されており、決して楽観視できる盤石な運営基盤ではありません。私たちは今、この「人の熱」を糧に、より安定した持続可能な基盤をどのように築いていくかという課題に真摯に向き合っています。

2026年度に向け、この手応えを胸に、次なるステップへと進んでまいります。どうかこれからも、小さな手が描く大きな未来を、私たちと共に面白がり、慈しみ、支えてくださいますよう心よりお願い申し上げます。

2026年2月吉日
代表理事：矢後千夏

金のいずみ土曜学校ご支援のお願い



教育の中で、本当に大切にしたいことは何でしょうか。

「勉強ができる」「足が速い」「リーダーシップがある」。

これらは素晴らしい能力ですが、実のところすべて「自分はここに居ていいのだ」という絶対的な安心感という土台があってこそ、健やかに伸びていく「枝葉」ではないでしょうか。

現代の子どもたちは、幼い頃から多くの評価や競争、デジタル情報にさらされています。

「もっと早く」「もっと上手に」「小さいうちに、始めなくちゃ」

大人の焦りは、知らず知らずのうちに子どもの呼吸を浅くさせているかもしれません。

私たち白山ウォールドルフコミュニティは、そうした評価のまなざしから離れて、大人が子ども一人ひとりの存在そのものに畏敬の念をもって見守る場所をつくりたいと考えました。子どもが心から安心し、深く呼吸ができる場所。その子が自分自身の内側にある天命のようなものを見つけ、自分の足で人生を歩いていくための、たくたくましい「人生のねっこ」を育む環境。そんな場所を金沢にとの願いに共鳴した教育者や保護者が手を取り合い、運営しているのが「金のいずみ土曜学校」です。

週1日の土曜学校とはいえ、子どもたちの成長と安全をお預かりする責任は、平日の学校と何ら変わりません。これまでこの場所は、並外れた献身によって支えられてきました。カナダで実績を積んだ教育者や、往復100km以上を手弁当で通う教師たち、スタッフや保護者が情熱だけで走ってきた数年間でした。

しかし、「特定の誰かが無理をしないと続かない」という状態は、決して健全ではなく、持続可能でもありません。子どもたちがいつでも戻れる母校として、この場を未来へ残すことが私たちの願いです。そのために、個人の献身に頼る段階を終わらせ、仕組みとして回る社会的な場へと進化させる必要があります。それを参加費だけで賄おうとすれば費用が高騰し、経済的な理由で通えない子が出てしまいます。「すべての子どもに開かれた場所」であり続けるために、私たちはクラウドファンディングという挑戦を選びました。

不確実な未来を生きる子どもたちに必要なのは、偏差値やスキルといった枝葉の前に、「世界は美しく、信頼に足るものだ」と信じられる「人生のねっこ」です。その根を育てる土壌となるのは、私たち大人の姿です。大人が手を取り合い、誇りを持って支え合う背中こそが、子どもたちへの一番の贈り物です。

どうか、この金沢の小さな学びの庭のサポーターの一人になってください。あたたかいご支援が次の時代を生きる子どもたちのお守りになります。ご支援を、心よりお願い申し上げます。

HAKUSAN WALDORF COMMUNITY NEEDS YOUR GENEROUS SUPPORT



CARING
ADMIRING



GRATITUDE



FINDING
EACH OTHER



あなたのご支援が、この学びを守ります

私たちは、この教育を「枠組みの存続」ではなく、「次世代への責任」と捉えています。

皆様のご支援が、未来へ希望を持って生きていく次世代をつくります。

2026年度以降も、このかけがえのない小さな学校の教育実践を継続・発展するための輪の一員として、どうぞ私たちの活動へのお力添えをよろしくお願いいたします！

ご支援の方法



- クラウドファンディングで支援
- 金融機関からのお振込によるご支援
ゆうちょ銀行 記号番号 13110 - 21261451
他金融機関からの振込 店名：三一八 (店番：318)
普通 2126145 シャ)ハクサンウォルドルフコミュニティ

子どもたちと育てたお米や
手仕事品などのリターンを
ご用意しています！